

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年 国語 142人 社会 143人 数学 146人

理科 146人 英語 148人

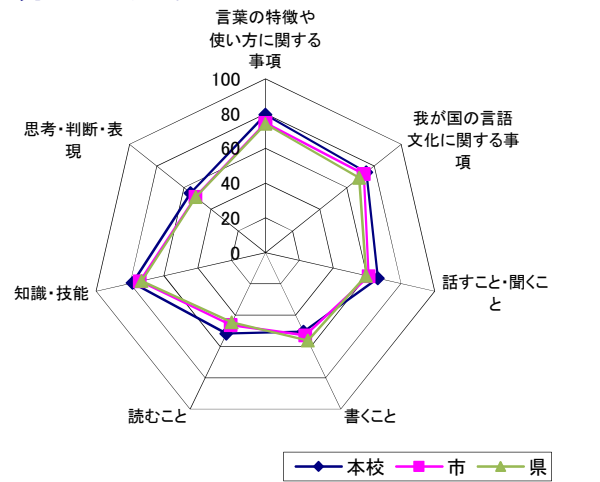
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.4	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	74.3	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	66.4	60.9	59.5
	書くこと	50.5	52.8	56.2
	読むこと	51.7	46.2	44.5
観点	知識・技能	78.4	74.2	73.1
	思考・判断・表現	55.1	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

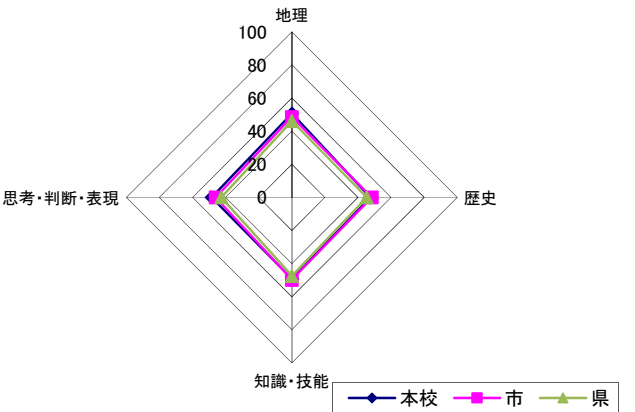
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字の読み書きに関しては、ほとんどの問題が県・市と同等の正答率か、問題によっては正答率が高いものもあった。敬語の働きについては、市の平均より12.3ポイント上回っている。文節の関係についても、市の平均より6ポイント上回っている。	・漢字については、読みはおおよそできているが、書き取りになるとまだ定着には課題がある。今後も授業での漢字テストの実施や短作文での指導を通して、定着を図る。 ・敬語や文節の問題では、授業中に問うなど、折に触れ、復習する機会を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題や、行書の特徴を理解する問題では、市の平均を約2ポイント程度上回る正答率であった。	・歴史的仮名遣いについては、今後も授業を通して、復習の機会を設ける。 ・行書については、書写の授業の中で、実際に書くことでその特徴の理解をさらに深化させる。
話すこと・聞くこと	○話し合いについての問題は、どの問題も正答率が市を上回っている。特に条件に従って話し合いの結論を書く問題では、市の平均を12.7ポイント上回った。	・聞き取りテストや話し合いの授業を通して、話の内容や展開を捉えられるよう、今後も継続して指導する。 ・書くことにもつながるが、条件に従って話し合いの結論を書く問題では、市平均より高くはあるが、条件を満たすことができていない生徒が多い。条件を読み取る、条件に合わせてまとめる問題を解く機会を増やす。
書くこと	●作文を書くことの正答率は、市や県を下回っている。特にグラフから読み取った内容を明確にして書くことについては、市の平均より7.4ポイント低い。無解答率も22.5%と高い。	・無解答の生徒が多いことについては、問題を解くスピードが間に合っていないことや、苦手意識の強さが原因と考えられる。また、話すことと同様に、複数の条件を満たして書くことが苦手である。書くことへの苦手意識をなくすために、まずは条件のある短作文を書く経験を多く積む。複数の条件を満たして書くために、資料から読み取って文章に簡単にまとめるなど、要約する力の向上を目指し、さらに自分の考えを明確に表すことができるように指導する。
読むこと	○どの問題も市や県の平均を上回る正答率である。特に文章の内容を捉える問題や、心情の変化を捉える問題では、市の平均を8ポイント近く上回っている。 ●「～という言葉を使って、○字以上、○字以内で答えなさい」という問題では、無解答が28.2%、40.9%と高い。	・文章の構成や内容を捉えることについては、引き続き接続語や指示語に注意して読み取っていく指導を行う。 ・書くことと同様に、条件が示された問題が苦手である。文章の内容や問題の意味を捉えられるよう、要約する力の育成や、条件にそってまとめる力の育成を目指す。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	50.6	48.6	46.2
	歴史	47.4	48.3	45.3
観点	知識・技能	49.2	49.8	47.5
	思考・判断・表現	48.4	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

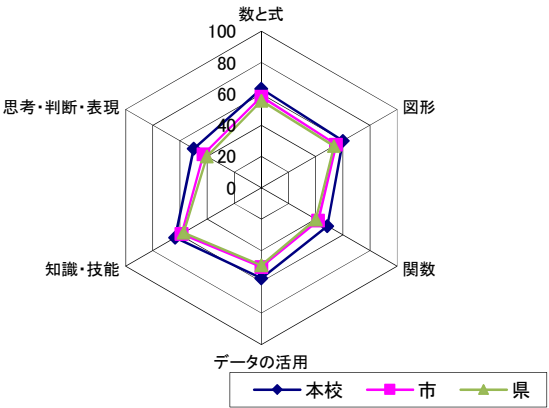
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○地理の領域では、市の平均正答率を2.0ポイント上回った。特に、資料から原油の国際価格の変化を読み取る問題では、市の正答率を12.5ポイント上回るなど、資料から読み取る問題で正答率が高い傾向が見られる。 ●アフリカ州の国境の特徴についての問いは市の平均正答率から4.3ポイント、地球上から日本の位置を答える問いについても4.3ポイント下回った。また、世界各国の国土面積と排他的経済水域の面積の関係についての問いでは、市の平均を5.9ポイント下回った。	・現在持っている資料を読み取る力を活用しながら、新しい分野の資料の読み取りに挑戦する学習活動を授業で行うことで、資料を読み取る力をさらに伸ばす。 ・アフリカ州の国境の特徴、日本の位置、日本の排他的経済水域の特徴については基本的な知識の部分なので、今後の授業において、授業内容に関連する既習部分の知識にも触れ、基本的な知識の定着を図る。
歴史	○特に、複数の資料から読み取れる内容を基に、偽籍が行われた理由を記述する問題では、市の平均正答率を13.4ポイント上回った。また、複数の資料から後三条天皇の特徴をつかむ問題では市の平均を2.7ポイント、複数の資料を基に、鎌倉時代に仏教が広まった理由を選ぶ問いでは、市の平均を5.8ポイント上回った。 ●歴史の領域では、市の平均を0.9ポイント下回った。特に、律令制の法令についての理解を問う問題では市の平均正答率を9.4ポイント、室町時代の社会の様子についての理解を問う問題では9.5ポイント、琉球王国の中継貿易への理解を問う問題では6.9ポイント下回った。また、承久の乱後の鎌倉幕府の支配の変化についての問いでは、市の平均正答率を8.6ポイント下回った。 傾向として、基本的な知識の理解が不十分な様子が見られる。	・単元や小単元の振り返りの活動を充実させ、それぞれの時代の特徴をおおまかに捉え、知識として定着するように指導する。 ・授業において過去の時代との比較や、既習部分の知識を活用する学習活動を行うことで、基本的な知識の定着を図る。 ・授業において、複数の資料から読み取って解答する力を活用しながら新しい分野の資料の読み取りに挑戦することで、資料を読み取る力をさらに伸ばす。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.2	58.2	55.5
	図形	60.0	55.1	53.5
	関数	48.7	41.9	40.2
	データの活用	57.7	50.5	49.4
観点	知識・技能	63.6	58.8	57.3
	思考・判断・表現	49.9	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

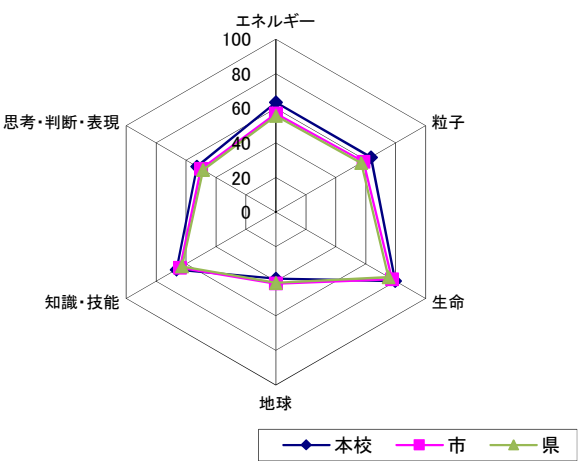
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○四則の混じった計算は、市の平均正答率より3.8ポイント高かった。	・反比例の関係におけるx, yの値から反比例の式を選ぶ問題については64.4ポイントと市平均より高かったが今後一次関数の分野を学習する中で比例、反比例の内容の復習をする時間を設ける。
図形	○垂線の作図については市の平均正答率を10ポイント以上大きく上回った。 ●円柱と円錐の体積の関係についての問題では、市の平均正答率より1.6ポイント低い状況にある。	・授業では、ICT機器を積極的に活用し視覚的に立体の動きや形を復習する時間を設ける。 ・また、定期テストに確認問題として出題することで定着を図る。
関数	○関数の問題で代入をして求める問題の正答率は平均より17ポイント高い状況である。 ●比例のグラフを問題では、市平均正答率よりも1.1ポイント低い状況である。	・関数の分野は、2, 3年次でも扱う大切な内容である。そのため、2年次の一次関数の学習では、比例や反比例の関係を復習する時間を設ける。
データの活用	○累積度数を求める問題では、市平均正答率より15ポイントも高かった。また、データの活用の分野ではほとんどが平均より6ポイント以上の差をつけている。	・授業の中では、2年次には箱ひげ図などより詳しくデータの分析することになるので現実的な事象を扱って生徒の興味を引き出すよう指導の工夫を図る。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	63.5	57.0	55.7
	粒子	63.5	58.6	56.9
	生命	79.6	77.5	75.2
	地球	38.4	41.4	40.9
観点	知識・技能	66.4	64.1	62.8
	思考・判断・表現	52.7	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

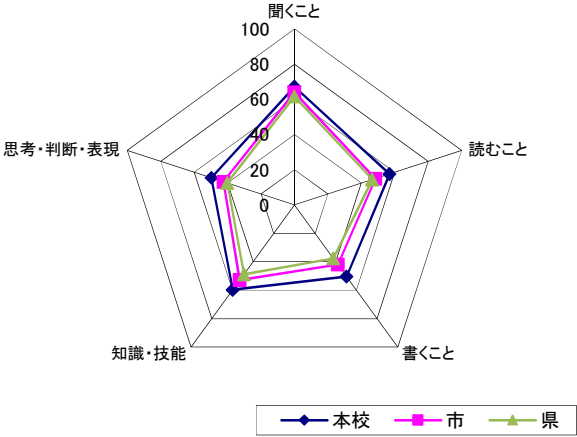
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市県の平均正答率を、6ポイント以上上回る結果となった。特に光の単元の学習では、鏡に映った範囲や、光の反射の道筋を正しく理解している生徒が多く、市の平均を20ポイント近く上回る結果となった。 ●音の実験結果をもとに、考察を検討して改善する修正能力は、市県の平均正答率を1ポイント程度下回っている。	市県の平均正答率も同様記述式の問いが苦手な生徒が多いため、実験の考察や日々の振り返りを通じて自分の考えを記述する表現力の向上を図る。また、わざと誤った結果を提示し、何がどう間違えているか比較・検討する学習を取り入れる。さらに、無回答の生徒に向けて、基礎学力の充実を図る指導を工夫する。
粒子	○市県の平均正答率を、5ポイント以上上回る結果となった。特に1年生が苦手とする質量濃度パーセント濃度を求める問題は、市県の平均を10ポイント以上上回る結果となり、半数以上の生徒が身に付いていることが分かる。 ●一定数の生徒において、選択式の問いに無回答生徒があり、市県の平均正答率を0.5ポイント以上上回っている。	折に触れて、1年生の学習内容を忘却しないよう振り返りを行うとともに、無回答の生徒に向けて、基礎学力の定着を図るような補助的な学習を進める。
生命	○市県の平均正答率を、3ポイント以上上回る結果となった。特に肉食動物と草食動物を比較する問題が市県を8ポイント以上上回る結果となった。 ●図をもとにゴボウを分類する記述式の問いが、市の平均を5ポイント近く下回っている。また、一定数の生徒において、選択式の問いにおいても無回答生徒があり、市県の平均正答率を0.5ポイント以上上回っている。	記述式の問いが苦手な生徒が多いので、実験の考察や1単位時間の振り返りを通じて自分の考えを記述する力を育む。また無回答の生徒の減少に向けて、基礎学力の定着を図るような補助的な学習を進める。
地球	○石灰石の分類方法として、二酸化炭素の発生方法について解答する問いは市県の平均正答率を2ポイント以上上回る結果となった。 ●全体的に市県の平均正答率を下回る結果となった。とくに資料をもとに各地点の地層のつながりを理解する力がついていないことが分かる。	1年生の最後に学習した分野であり、知識の定着のための学習時間が十分でなかったことが考えられる。折に触れて1年生の地学分野の復習を取り入れるとともに、2学年の学習内容が早く終わった際には、再度補充を行う。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	67.1	64.0	61.6
	読むこと	56.9	48.4	46.6
	書くこと	50.4	42.0	37.8
観点	知識・技能	59.7	52.9	48.9
	思考・判断・表現	49.7	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は、市の平均を3.1ポイント上回っている。特に情報を正確に聞き取り、適切に応答することができるかどうかみる問題は、10.2ポイント、県平均からは13.3ポイント上回っているところは、スモールトークの継続の成果であると考えられる。 ●日常的話題について、話の概要を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に書くことができるかどうかを見る問題は、学校全体の無回答率が24.3%と多く、課題が見られる。	・授業の帯活動として、スモールトークを継続し、英語を使ってお互いの考えを伝え合う力を身に付けさせる。 ・ALTとの対話やパフォーマンステストを定期的に行い、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答えられる力を育む。 ・たずねられたことに対して、話す力だけではなく、簡潔に文で表現することができるようするために、既習の単語や文法を繰り返し練習し、基礎基本の定着を図る。
読むこと	○平均正答率は、56.9%であり、市の平均を8.5ポイント、県の平均を10.3ポイント上回っている。日常的話題について、自分が置かれた状況から判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうか問う問題では、市の平均を13.8ポイント上回り、リテリングを通して、要点をつかむ力が身に付いていると考えられる。 ●対話や英文を読み取り、適切な答えを選択することはできているが、日常的話題に関して、読んだことを整理し、まとまりのある文章を書くことまでは、まだ課題が残る。	・情報を読み取って適切な答えを選択する問題はよくできているので、教科書のRead and Thinkの問題を活用することを継続していく。 ・読み取った内容を他者に伝えるリテリングを通して、読み取り伝える力が身に付いてきているので、口頭での発信だけでなく、読み取った内容をまとまりのある文章で表現する力を身に付けさせる。
書くこと	○平均正答率は、市平均を8.4ポイント上回っており、県平均を12.6ポイント上回っている。教科書のUnit ActivityやStage Activityを通した、書くことの指導の成果であると考えられる。 ●市や県の平均を下回っている項目はないが、学校全体として、無回答率が高く、関心のある事柄について疑問詞を用いて様子をたずねる疑問文を正確に書くことができるかどうかを問う問題では、無回答率が27.0%であった。	・マッピングや協働学習を取り入れて、自分の言いたいことが表現しやすい環境づくりを心がける。 ・スモールトークや対話活動で話したことを書き起こし、表現したことを文章にする活動を行うことで、書くことへの抵抗を少なくしていく。 ・伝えたいけれど伝え方がわからない表現を学級で共有することで、表現の幅を広げていく。

宇都宮市立旭中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(1)「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」では、肯定的回答が県平均を13.3ポイント上回っている。
 (25)「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では、肯定的回答が県平均を13.56ポイント上回っている。
 (26)「授業では、自分の考えを発表する機会を与えられている」では、肯定的回答が県平均を11.8ポイント上回っている。
 (29)「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」では、肯定的回答が県平均を16.5ポイント上回っている。
 (37)「先生は学習のことについてほめてくれる」では、肯定的回答が県平均を17.1ポイント上回っている。
 (57)「家の人と学習について話している」では、肯定的回答が県平均を15.2ポイント上回っている。

●(10)「学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含む)で勉強していますか」では、県平均を9.9ポイント下回っている。
 (11)「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか」では、県平均を1.4ポイント下回っている。

(43)「毎日、朝食を食べている」では、肯定的回答が県平均を3.9ポイント下回っている。
 (44)「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」では、肯定的回答が県平均を3.9ポイント下回っている。
 (57)「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」では、肯定的回答が県平均を10.6ポイント下回っている。

以上のことから、学校の授業では、生徒同士や生徒と教師の関係が良好で、意欲的に学習に取り組み、成果を感じている生徒が多いことがわかる。また、計画的に学習に取り組み、家庭でも学習を話題にしている生徒が多いことから、学習に関心のある生徒が多い。これまで同様、協働的な学びや教師の声掛けを継続し、学習への意欲を高めていく。

生活面では、学級活動や給食指導を通して、基本的な生活習慣の確立を定着させたい。また、だれに対しても思いやりの心を持って接することができるように、普段からの教師の声掛けや学校行事、道徳の授業などで、互いの良さを見つけ、認め合う機会を多くもたせたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習のめあてと振り返りの充実	授業の始めには、めあてを提示し、授業の終わりには学びを振り返り、言語化する。 ※ はっきり・じっくり・すっきり	(29)授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。 (38)先生は学習のことについてほめてくれる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
様々な場面で言葉や技能を使いこなす力 信頼できる情報や知識を収集し有効に活用する力	デジタルシティズンシップ学習	教科・領域で学んだ知識・技能を思考に活かせる包括的な授業の工夫を図る